

林業技術センター  
普及班便り  
(第17回)

## あなたの山づくりを応援する林業普及 いわての林業経営者【その7】 ◆自宅「屋敷1ha」・蔵3棟」・池5面!」

一 はじめに

今回は、花巻市石鳥谷町で林業経営一筋の小原紘さん（69歳）を紹介します。



小原 紘さん

二 先代は銀行員から林業経営者に  
(1) 父は全国組織の行員だった

もともと、大面積の山林を所有する（現在235ha）林家の次男として生まれた父は、（現）中小企業金融公庫に勤め全国を転勤する行員だったのですが、事情あって生まれ育った自宅に呼び戻され林業を継ぐことになったそうです。

(2) あわや「広島原爆」被爆!

当時の公庫支店は、東北では仙台支店といったように、全国の主要都市にしかなく、父が広島に勤務して

いた時に小原さんが生まれ、終戦寸前の昭和20年春札幌に転勤、あわや「家族で被爆」の難を脱がれたのだと、幼い当時を思い出して話していました。

三 林業一筋

(1) 幅広い屋敷での生活

終戦間もない昭和21年、小原さんが小学2年生の時に、現在の家に住み始めたそうです。



自宅の「広～い屋敷」

自宅屋敷面積が約1ha、その敷地内に、蔵が3棟・池がなんと大小5面も、なんで5面も?と聞いたとこ

ろ、「防火用水」を兼ねた池だということでした。そんな、公園とも思えるほど広い屋敷での生活は、社宅住まいから引越した小原少年には「夢」のような生活だったそうです。



屋敷で一番広い池（庭園内）

(2) 山との関わりの始まり

ふり返れば、旧大迫町に所有する山林に、当時中学生の自分が父と2人で出向いた時からが森林との関わりの始まりだったとのこと。それは、旧石鳥谷町の自宅から自転車で向かい、泊りがけで2日がかりの行程で、今では考えられないことと当時をふり返ししみじみと話す小原さんでした。

(3) 林業が私の人生

小原さんは、所有している山林の大半が旧大迫町にあり、これまで年間平均1千㎡の素材生産をしながら、所有山林の整備を進めてきました。近年は、「森林整備地域活動支援交付金」を導入して74haの間伐を実施、また、「いわて環境の森整備事業」の趣旨にも理解を示し、率先して54haの事業地を提供するなど、森林に係って50年余り、「林業一筋の人生」ですと話しています。

四 森林整備を通じて地域貢献  
(1) 取組みが評価を受ける

これまでの取組みが評価され、岩手県林業改良普及協会主催の「平成20年度岩手県地域林業促進活動表彰事業」で、その功労に対し表彰を受けました。これを期にさらに意欲的に取組みたいと話す小原さんでした。



ここから見える山が所有山林

林業技術センター 普及班